

概要版

美ら島づくり花の森整備事業
基本構想・基本計画

【 阿佐区 】

平成 25 年 3 月

座間味村役場 総務課
株式会社 トロピカル・グリーン設計

目 次

1章 基本構想	1
1. 上位・関連計画	1
2. 基本方針の策定	2
3. 具体的な整備方針	3
4. 基本構想図の作成	5
5. 各候補地の整備メニュー	6
2章 基本計画	7
1. 整備内容	7
2. 年次事業計画の作成	14
参考資料	15
1. アンケート	15
2. ヒアリング	17

1章 基本構想

1. 上位・関連計画

当計画に関する上位計画や関連計画を整理した。

■表 上位関連計画と関連する主な内容

	図書・報告書名/発行年月日	当整備事業に関連する主な内容
上位計画	座間味村第四次総合計画 平成 24 年 4 月 発行:座間味村役場 編集:座間味村、総務課	豊かな地域資源が永遠に守られ、人と自然環境が共生する『楽園』 村民が住み心地の良い村、観光客が又訪れたいくなる村づくり 環境の保全ー美しい自然と生活が共生する村づくり ・花木を活用した全島緑化 地域環境美化支援事業の強化や、ボランティア事業の推進と 1 世帯 1 鉢運動の検討 ・モクマオウ等在来種を脅かす外来植物の駆除 外来植物の繁殖実態調査の実施し対策を講じる ・みどりの島から花の島へ 【阿 真 区】:サクラの植栽による桜並木 【座間味区】:高月山にケラマツツジ 【阿 佐 区】:久岳林道にエゴの並木 【阿 嘉 区】:ケラマツツジとイジュ 【慶留間区】:ケラマツツジとイジュ 野鳥やチョウのみられる林の中の遊歩道、散策道、撮影ポイントを 設ける(景観の障害となる樹木等の伐採)
	緑の美ら島づくり行動計画 平成 24 年 3 月 沖縄県農林水産部森林緑地課	100 年先を見据えた「緑の美ら島」の創世を目標に 「365 日花と緑と香りいっぱいの沖縄」づくりを展開している 「緑の美ら島の創生をめざして」 「生命あふれる緑の美ら島づくり」 「活力ある緑の美ら島づくり」 「沖縄らしい緑の美ら島づくり」 上記、4 つの目標を掲げ県土の緑化の推進のために策定
関連計画	座間味村鳥獣被害計画書 座間味村役場 産業振興課	鳥獣被害防止特措法に基づく鳥獣被害防止計画 沖縄県と事業の調整中 ケラマジカ対策(天然記念物のため駆除できない) ハシブトガラス、イノシシの駆除
	平成 24 年度阿佐地区避難道路 整備工事	津波時の避難路の整備事業 実施設計終了、H25 年度工事予定
	座間味村外来植物討伐事業	平成 23 年度から 10 年間、モクマオウの伐採を行う

2. 基本方針の策定

集落内の美化が求められている（観光客の目線）

住民が気づかない集落の景観が、観光客に評価が高いため、花で彩りをもたらすことによって美化の向上を図る事となり、訪問者の増加に繋がる。

特産品となり得る植物を増やす

ヤマモモ、パパイヤ、グァバ、シークァーサーなどの植物を増やすことにより将来特産品となる可能性が増す。（特産品は、知名度などからも一定程度の量が必要）

管理体制の構築—主体と責任を明確にする、リーダーの育成

職業など立場の異なる住民が参加しやすいグループづくり
現在、リーダーとなる人材はいるが、将来を見据え新たなリーダーの発掘と育成を事業として立ち上げサポートしていく必要がある。

景勝地や展望台などへの誘導を草花緑化により行う

景勝地や展望台といった場所（点）を沿道植栽（線）等で結ぶ

圧倒的なボリューム(量)や延長で名所を生み出す

伊江島のユリ、中城のヒマワリのように圧倒的な量、八重岳のヒカンザクラのように一定以上の延長が価値を生み出す。

■写真 先進事例写真

伊江島のユリ	北中城のヒマワリ	本部町八重岳ヒカンサクラ
		
自治体を中心となり、村をあげて活動しており、毎年数万人が訪れる。	緑肥と雑草抑制のために植えたのがきっかけで毎年規模が大きくなっている。	線(延長)としての整備事例 開花期には交通規制をして花を楽しんでいる。

3. 具体的な整備方針

1) 植物を使った島おこし

- ① 集落内を花で彩る－楽しみながら暮らせる生活環境をつくる

各戸の庭や路地の空き地などに草花を定期的に植えつける
 〈例〉季節毎に、年4回の植え替え－植替用の草花の苗が必要

- ② フルーツアイランド

シークァーサー、タンカン、ヤマモモ等の果樹を植林し
 ホエールウォッチングやサクラ祭りに加えてミカン狩りを行う
 〈例〉計画的に果樹を増やす当初は農業ではなく観光資源とする
 －定期的に植林を行うための果樹の苗木が必要
 －植林もこれまで通りイベントとして行う

- ③ モクマオウの伐採

外来植物討伐事業で今後10年モクマオウの伐採ガラの有効活用
 〈例〉炭づくり－村内のバーベキューで活用
 キャンプ場で、各種イベント時のキャンプファイヤーの燃料として活用
 する

2) 養蜂－座間味のはち蜜

花粉媒介者としてミツバチの導入

上項により、草花や果樹が増える事を見据え、養蜂を検討する。採蜜を行うだけでなく、ミツバチがポリネーター(花粉媒介者)として活動することにより果樹の収量も増やす事が期待できる。

3) 苗木生産

生産拠点の整備－(別事業：産業振興課－補助事業や、既存施設の補修活用)
 雇用の創出を目的とした事業展開を図る。

- ① 草花の苗木生産

(仮)集落美化事業一年4回各地区で草花の植え替え作業を行う。
 〈例えば〉観光誘致のための予算を確保し、苗を購入して配布する。

- ② 果樹の生産

フルーツアイランドに向け、計画的に定期的に果樹の苗木を生産し植林する。

- ③ 島野菜の苗木(種)生産

村外から入手していた種や苗を生産して農家に販売する。

- ④ 特殊樹(ブランド樹)の生産

村内の緑化には、慶良間で育てたケラマツツジを使用する。
 また、ブランド化することにより付加価値を付けて出荷する(海運の費用を補助)
 ケラマツツジ等の種の保全も行える。

4) 阿嘉区、慶留間区におけるケラマジカ対策

阿嘉区、慶留間区においては農作物だけでなく、屋敷内外の草花も食害を受ける状況にあることから、長期的には、植林等によりケラマジカ本来の棲息域の餌場環境を良くして人里に近づかないような対策を講じるとともに、短期的には植栽する植物や草花を物理的に被害に遭わないための工夫が必要となる。

5) 外来植物（モクマオウ等）の繁殖調査を実施し伐採等の対策を講じる

モクマオウは、潮風に強く成長が早いことから海岸防風林等に利用されそれらが徐々に増えている。そこで本来、島に生えるフクギ、テリハボク等の植物に替えていく必要がある。伐採したらこれらの苗木を植え、フクギ等の苗木が一定の大きさに達したらモクマオウを伐採するなど計画を立てて実施すべきである。

6) 植栽植物の環境圧に対する確認

植栽される場所は地形の特性上、海岸線からそれほど離れることはなく、台風などの時には潮風が吹き付ける厳しい環境にある。

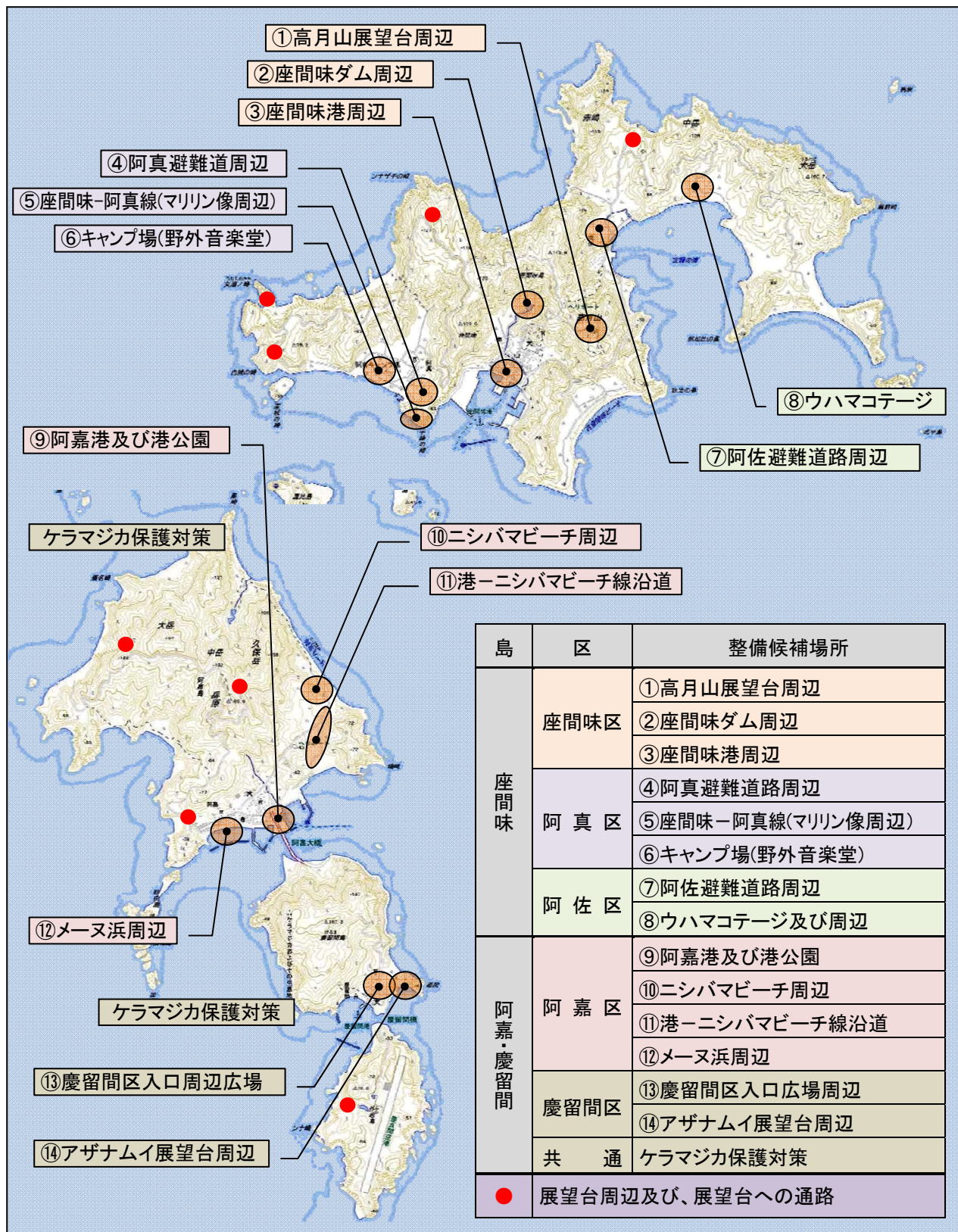
そのため、植栽植物は耐潮風性が強い植物でなければならない。そのため、具体的な場所が決まった場合は、風環境、日照条件、土質を調査し適正な植物を選定しなければならない。

なお、植栽直後は、支柱や仮設の防風ネットなどの設置も必要となる。また、阿嘉区、慶留間区においてはシカの食害にあわぬように対策を講じなければならない

4. 基本構想図の作成

各島、各区の整備候補場所として以下の場所を選出した。

■図 整備候補場所全体図



5. 各候補地の整備メニュー

■表 整備概要－座間味島

島	区	整備候補場所	整備目標
座間味	阿佐区	⑦阿佐避難道路周辺	・現在整備中の避難道の植栽可能なスペースを緑化し、避難路を日頃は散策路として楽しめるように整備する。
		⑧ウハマコテージ及び周辺	・施設周辺を緑化し、施設の裏側や美しくない場所を遮蔽し、これにより風環境を緩和して花木を植栽して彩りを創出する。 ・夏の暑さを遮るための緑陰樹を植栽して環境の改善を図る。

■表 整備概要－全域

島	整備候補	整備目標
全域	展望台周辺及び、展望台への沿道緑化	・既存植栽の維持管理を充実させ眺望を楽しむと共に周辺の山の植物や草花を楽しめる場所とする。 ・枯損部に補植を行う(環境に応じた樹種選定) ・入口部や駐車場周辺を花木で彩ると共に緑陰を確保するための緑陰樹を新植する。
	サイン(案内板)整備	・当事業により魅力を増した花の名所や村内の史跡名所や展望台などの情報を観光客に伝えるための情報発信の一つとして村内全域のサイン(案内板)を整備する。
	ガイドマップ作成	・上記の案内板と連動した、5区のガイドマップを作成し各地区の魅力を伝える。

2章 基本計画

ここでは整備候補場所の中から、優先度の高い二つの場所について整備案を作成した。

1. 整備内容

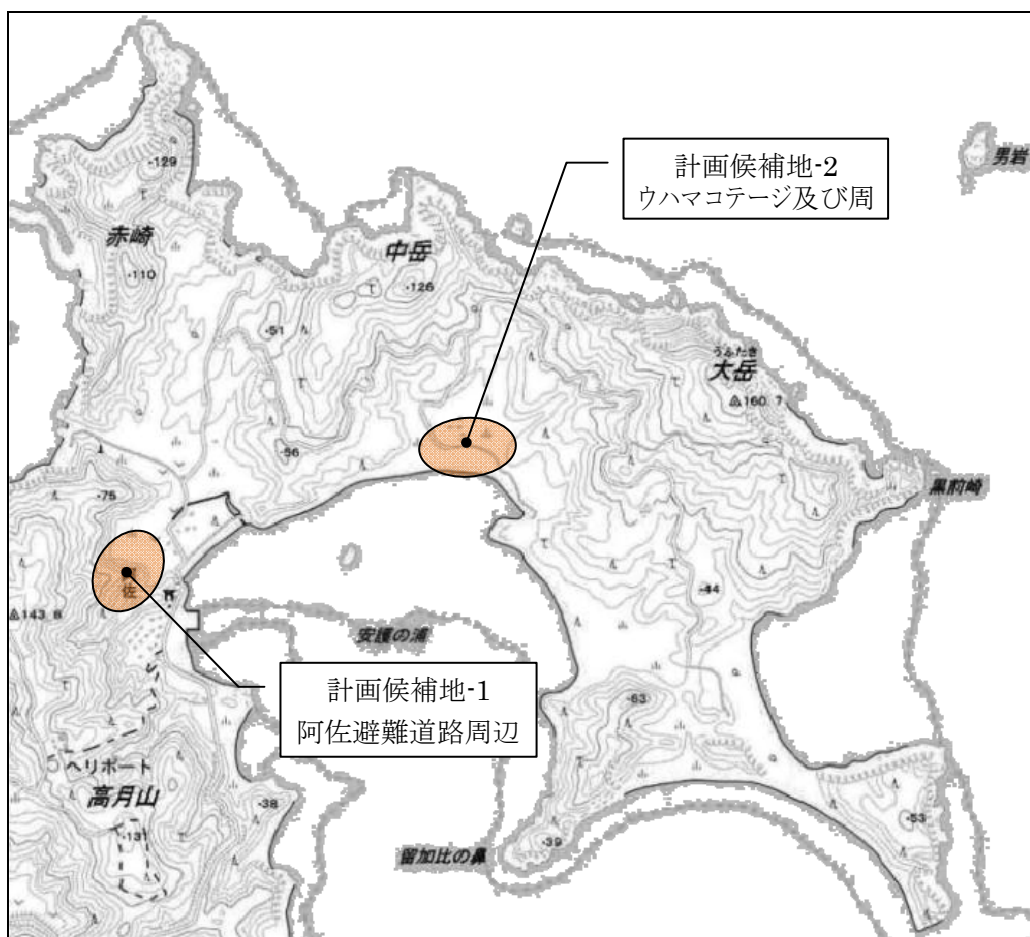
① 候補地-1 阿佐避難道路周辺

阿真の避難道と同様に、集落から島の反対側に向ける尾根に沿った旧道を避難道として整備が行われており現在、造成工事中である。

② 候補地-2 ウハマコテージ及び周辺

安護の浦の最奥に位置しており南面に向いている。当候補地と海岸の間には海岸防護林が整備されている。

■図 計画候補位置図



1 阿佐区 阿佐避難道路周辺

1) 現況

①風

集落の裏手であることから、冬季の季節風、海岸からの潮風の影響はそれほど強くはない。しかし、台風時には塩分を含んだ風を受ける場所である。

②日照

場所によっては既存の樹木によって日当たりが不十分な場所がでてくる。

③その他

のり面勾配が非常に急で、植栽に適した土壌ではない

■図 平面図



■写真 現況写真

<p>写真① 集落入口部</p>	<p>写真②</p>
 <p>・のり面は勾配が急で、植栽には厳しい植栽基盤となっている。</p>	 <p>・谷川のり面部は、間知ブロック積が予定されている。</p>
<p>写真③</p>	<p>写真④</p>
 <p>・左奥の幅が広がっている場所まで車の乗り入れが可能な場所。</p>	 <p>・木々の間から海(安護の浦)を望むことができる場所がある。</p>

2) 具体的な整備内容

- ・整備する避難路の沿道の植栽可能な場所に高木から低木地被を植栽する。

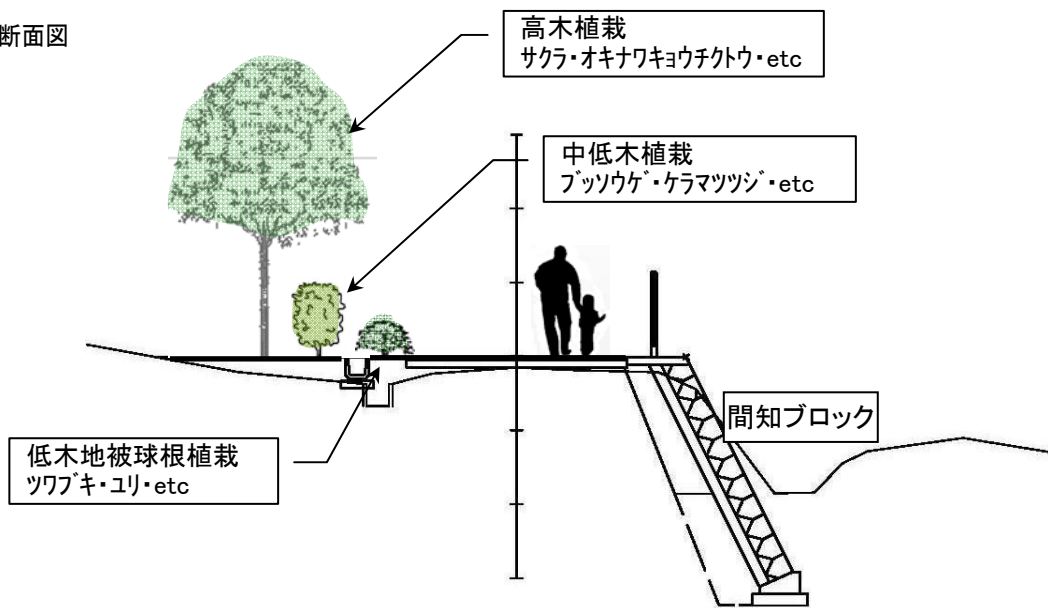
候補樹種

中高木：サクラ、オキナワキョウチクトウ、etc

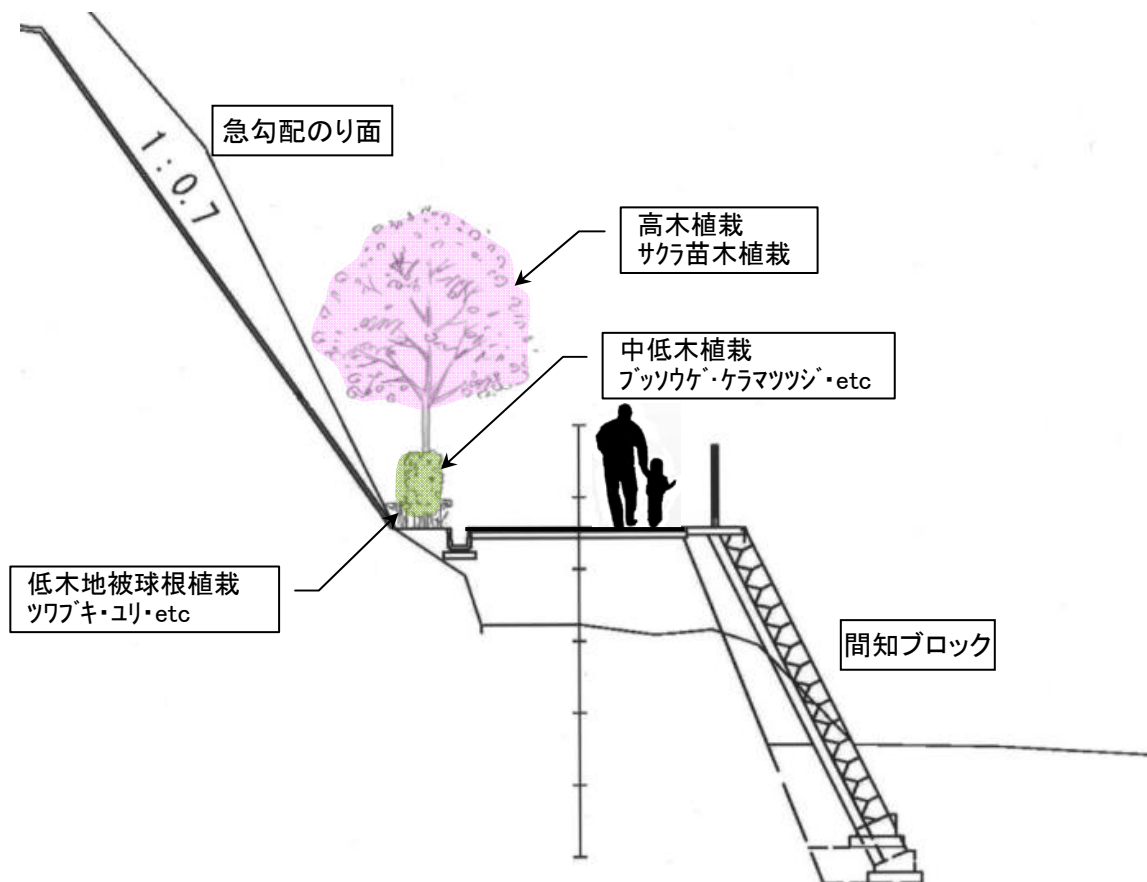
低木：ブッソウゲ、ケラマツツジ、etc

- ・ただし、急勾配の のり面への植栽は厳しいことから、のり肩やのり尻にサクラの苗木 (H=1.0m 程度) を植栽する。
- ・ユリやアマリリス、ショウキズイセン等の球根も植栽する。

■ 図 断面図



■ 図 断面図 急勾配部



② 阿佐区 ウハマコテージ及び周辺

1) 現況

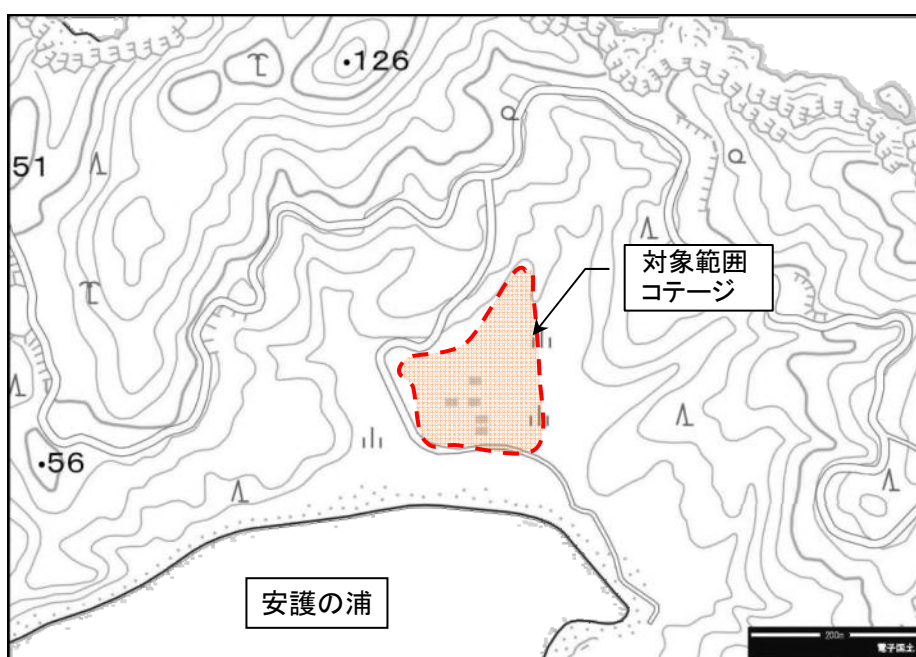
①風

集落の裏手であることから、冬季の季節風、海岸からの潮風の影響はそれほど強くはない。しかし、台風時には塩分を含んだ風を受ける場所である。

②日照

場所によっては既存の樹木によって日当たりが不十分な場所がでてくる。

■図 平面図



■写真 現況写真

写真① 体験滞在交流施設コテージ	写真② 同左
 <p>・ロフトタイプ 3 棟とバリアフリータイプ 2 棟が芝生の広場に設置されているある。</p>	 <p>・同左</p>

2) 具体的な整備内容

1. コテージ周辺植栽

- ・コテージ毎の敷地境界に中低木を列状に植栽しエリアを明確にするとともに景観の向上を図る。
- ・また、一定間隔で夏の暑さを遮るための緑陰樹を植栽して涼し、快適に過ごせる環境をつくる。

(緑陰樹は、効率よく緑陰を確保できる用に横に広がり、冬場に暗くならないよう落葉する樹種も選定する)

候補種：コバテイシ、アコウ(半落葉)、etc

2. 季節の草花植栽

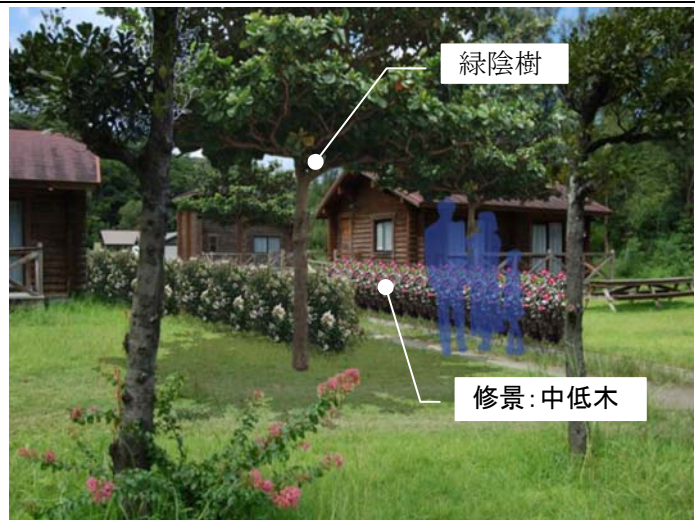
- ・広い敷地を活用して冬季の名所となる花の園となる草花を面で植栽する。
冬季に花が咲き、比較的管理が容易な種

候補種：ユリ、バラ、ヒマワリ、etc

■写真 現況



■写真 整備イメージ



■整備イメージパース（スケッチ、イメージモンタージュ）

⑧阿佐区ーウハマコテージ



・施設周辺を緑化し、夏の暑さを遮るための緑陰樹を植栽して環境の改善を図る。

2. 年次事業計画の作成

事業を進めるに当たり、各区の要望や関連する道路整備状況などを考慮し、下表の順序で整備を行うこととする。

■表 年次事業計画

年度	設 計	工 事	苗木生産
25	座間味島(3区)の実施設計	—	
	苗木生産の支援	阿真区整備工事	準備(体制確保) 生産開始
26	阿嘉・慶留間島(2区)の実施設計	阿佐区整備工事 座間味区整備工事	整備工事にあわせて 随時生産
27	村全域サイン計画・設計 ガイドマップ作成	阿嘉区整備工事 慶留間区整備工事	同上
28	—	座間味村サイン計画	

参考資料

1. アンケート

【座間味村全体】

■回答者について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子、夫婦、一人暮らしの割合が高い。 ・70代以上が一番多く、50代以上が30%を占めている。 ・観光業が40%を占めていることから、地区全体が観光業で成り立っているといえる。 ・観光業の中でも、レジャー業が半数近くを占め、続いて宿泊業が多い。
考察	→観光業を営む住民、高齢者を巻きこんだ事業展開が求められる。

■座間味村について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・しまと海の風景が良いとの回答が最も多く、続いて祭り・イベント、村民とのふれあいとなっている。 ・村民とのふれあいも観光客にとっては来る理由の1つであると考えている村民が多い。 ・南国の森や集落の風景は、観光客の目的でないと考えている。 ・約90%以上の方が花や緑をふやしたい、今あるものをきれいにした方が良いと考えており、花や緑への関心が高い。
考察	<p>→しまと海の風景が良いと回答が多いが、多くの村民が集落の風景が良いとは思っていないことから、花と緑による集落の風景づくりが求められる。</p> <p>→しまと海の風景、村民とのふれあいが観光の目的であると回答が多いので、ふれあう事の多い集落内の美観を向上させることが求められる。</p> <p>→村民が行動出来るような計画が求められる。</p> <p>→本事業は村民の期待に応える意味でも必要性が高い。</p>

■管理について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・A問3の結果を踏まえると半数以上が花や緑はあるべきだと考えているが、行動出来ていないのが現状である。 ・その他(機会や場所が無く、やりたくても出来ない状態)という意見が多い。 ・花や緑に対する知識不足も出来ない理由として挙げられた。 ・時間が無いとの回答もあり、夏場の観光シーズンでは人手不足になる恐れがあると考えられる。 ・40%以上が地域の風景が良くなると感じている。 ・地域の魅力向上とともに観光客増加も期待している。 ・最も多かった要望は植物を配ってもらいたいことである。
考察	<p>→参加意思はあるものの、参加の機会や場所の提供がないのが実情であることから、花や緑を植えて育てる機会を作ること、場所の確保、管理体制を整える必要がある。</p> <p>→地域全体の美意識を高められる管理体制を整える必要がある。</p>

■まとめ

<ul style="list-style-type: none"> →管理体制の構築が求められる。 →年間を通して花が観賞できる植栽計画による明るいイメージ作りが求められる。 →観光地としての重要性が高いことから、スポット的な美観を向上する必要がある。
--

【阿佐区】

■回答者について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子、夫婦、一人暮らしの割合が高い。 ・50代が一番多く、50代以上が半数を占める。 ・観光業、公務員、観光以外の自営業の順に回答が多かった。
考察	→観光業を営む住民、高齢者を巻きこんだ事業展開が求められる。

■座間味村について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・しまと海の風景が良いとの回答が多く、続いて祭り・イベントとなっている。 ・南国の森や集落の風景は、観光客の目的ではないと考えている方が多い。 ・約90%以上の方が花や緑をふやしたい、今あるものをきれいにした方が良いと考えており、花や緑への関心が高い。 ・特産物として生産する量を確保出来るよう考える必要がある。
考察	<p>→しまと海の風景、祭り・イベントの目的であると回答が多いので、ふれあう事の多い集落内の美観を向上させることが求められる。</p> <p>→村民の美意識が高まり、行動出来るような計画が求められる。</p> <p>→特産品となるものはあるが、継続して生産出来る体制づくりが求められる。</p>

■阿佐区について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・安護の浦、フクギの屋敷林の回答が多かった。 ・目に見えずとも、のんびりしているところも魅力であると感じている方もいた。 ・道路や遊歩道等、指定文化財や施設等の回答が多かった。 ・ケラマツツジ、ハイビスカス等の回答が多かった。
考察	→島全体を通して、花や緑を植えたいという要望が見える。特に沿道や村指定文化財、集落など観光客の目にしやすい場所への希望が多く、観光客を意識した樹種・植栽箇所の抽出が求められている。

■管理について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の土地以外の場所では育てていない人が60%を占めた。 ・地域住民の美意識を高める必要がある。 ・機会や場所が無く、やりたくても出来ない状態という意見が多い。 ・時間が無いとの回答もあり、夏場の観光シーズンでは人手不足になる恐れがあると考えられる。 ・30%以上が地域の風景が良くなると感じている。 ・地域の魅力向上とともに観光客増加も期待している。 ・維持管理計画が必要である。 ・最も多かった要望は植物を配ってもらいたいことである。
考察	<p>→花や緑を植える場所の提供と植栽イベント等が、地域の美観意識向上につながると考えられる。</p> <p>→参加意思はあるものの、参加の機会や場所の提供がないのが実情であることから、花や緑を植えて育てる機会を作ること、場所の確保、管理体制を整える必要がある。また、夏場の参加者不足になる可能性は否定出来ないため、管理体制にて対策を講じる必要がある。</p> <p>→地域全体の美意識を高められる管理体制を整える必要がある。</p>

■まとめ

<ul style="list-style-type: none"> →管理体制の構築をする。 →年間を通して花が咲いている植栽計画による明るいイメージ作り →観光産業にて成り立っているため、地域全体の美観を整える。

2. ヒアリング

ヒアリングの結果以下のような住民の声や思い、要望があった。

【座間味村 全域】

- ・昔から各展望台にいたる沿道や展望台周辺には、ケラマツツジ、サクラなどを植栽しており、きれいに咲いた時期もあった。
- ・昔は、カツオを蒸すために松の木を燃料として使っていたので松の木を造林していた、他にイスノキなども植えていた。
- ・最近では、山道を散策する人も増えており、散策路の整備も重要である。
- ・H15～18年頃にも「花の森構想」があったが実現しなかった経緯がある。
- ・ツツジをもっと村外にアピールしてほしい。
- ・島に植栽チームをつくって活動してほしい、特にまとめ役となるリーダーが必要。
- ・案内板が不十分である、村全体で統一感を持ってつくられると良いと思っている。
- ・カラスが、グアバやシークァーサーなどの果樹を食害するので駆除してほしい。
- ・集落の中心部は特に建物の統一感があると良いと思う。(ブロック塀を生垣で統一するなどできることから始めれば良いと思う。)
- ・集落の中に季節を感じる草花がたくさん植えられると良い。
- ・冬場はやや時間があるので、植栽管理など地域のボランティア活動などには積極的に参加したい。
- ・植栽した植物が定着するまでの水やりなどのフォローをしっかりと行ってほしい、例えば、水をかける時の取水場の提供や、その料金負担などしっかり考えてほしい。
- ・道路の植栽管理などを、区ごとに競わせ良いところに表彰しても良いのではないかな。
- ・植樹する樹木をオーナー制にして管理してもらう方法も良いのではないかな。個人だけでなく団体でも良いと思う。
- ・管理体制が続けられる仕組みにしてほしい。例えば村の担当もすぐに変わりそこでとぎれてしまう事が多いので継続できる仕組みを考えてほしい。
- ・植栽材料はできる限り、村外から持ち込まず地元で生産した材料を使って植樹してほしい。
- ・資料館を設置し、慶良間諸島固有のケラマジカについて展示したり、ツツジ園、ヤマモモ園などのミニ植物園などの整備ができれば良いと思う。

【阿佐区】

- ・昔は、小学生が学校に行く前に家の周りのはき掃除をしていた時もあった。
- ・樹木に説明版がほしい、野鳥が好む樹木も専門家からアドバイスを受けて増やしてほしい。
- ・整備中の避難道ができれば、沿道にサクラや花の咲く木を植え散策路としても楽しめる道にしたいと考えている。
- ・久岳林道には絶景ポイントがあるので場所によっては、樹木を伐採して景観ポイントとして整備してほしい。(写真撮影のポイントづくり)
- ・集落は小さいが集落内が概ね綺麗に清掃されており景観が良く宿泊者からも喜ばれている。
- ・住民同士の交流も盛んで隣近所で協力しあって掃除などを行っている。